

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2023年9月15日

今月のトピックス 「投資信託でテンバガーは実現できるのか」

株式投資にある程度造詣の深い人であれば「テンバガー」という言葉をご存じのはずです。株価が10倍以上に上昇する個別銘柄を指していますが残念ながら筆者は数倍の銘柄を見つけた（投資はしていない）ことはありますが、テンバガー銘柄を見つけたことはありません。国内株式でもテンバガーになった銘柄は数々ありますが、投資信託、中でも国内株式だけでテンバガーを実現した商品はあるのでしょうか。日経平均株価も1975年の最も低い時期で3627円だったのが1989年12月のピーク時に3万6500円を上回っているため10倍以上（テンバガー）になっていますが、1975年には日経平均株価に連動するインデックファンドは設定されていません。TOPIX（東証株価指数）も1968年1月4日の基準日を100としているところ、1989年のピーク時には2884ポイントまで上昇しているため約29倍まで上昇したのですが、日経平均株価同様に同期間をカバーしたインデックファンドは設定されていません。ちなみに、欧米の株価指数に連動するインデックファンドも国内株価指数と似たり寄ったりという状況でした。インデックスファンドではテンバガーを実現した投信がないため、アクティブ運用の投信まで広げると以下の2つが見つかりました。

1つはアセットマネジメントOneが運用する「DIAM 新興市場日本株ファンド」です。同投信、設定は2007年11月ですが設定からわずか10年足らずで分配金込みの基準価額は10倍を達成しているのです。同投信はピーク時分配金込みの基準価額が約30倍に達するまで上昇、現在も分配金を考慮しない基準価額でも10万円を超えている名実共にテンバガーの投資信託です。ただし、同投信の新規販売は数年前から停止されており新規投資を行うことはできないので、投資対象等は割愛させていただきます。

もう1本はJPモルガンアセットマネジメントが運用する「JPM ザ・ジャパン」です。同投信は成長期待が高く株主重視の経営を行う企業のうち、これらの要素が株価に織り込まれていない銘柄を投資対象としています。過去20年の運用成績を調べて見ましたが、同投信の分配金込みの基準価額の変化率は基準日で11.4倍とテンバガーを実現しています。残念ながら同投信の基準価額はDIAM 新興市場日本株ファンドのように10万円を超えていないため、分配金を含まない名目上の上昇率はテンバガーではないものの、分配金込みの上昇率は10倍を超えている実質でテンバガーを実現したことになります。JPM ザ・ジャパンの評価期間と同期間の日経平均株価の上昇率が3.4倍、TOPIX（東証株価指数）の上昇率が2.4倍です。テンバガーを実現した2つの投資信託の運用成績は秀逸といえます。

国内株式だけを投資対象とする投信でテンバガーを実現した商品は2本しかなく、うち1本は新規募集が停止されている投信。このため過去20年の国内株式型投信の運用成績も調べてみました。図にあるように分配金込みの上昇率が5倍を超えた投信は9本もありました。9本が多いか少ないかは別として、「9本も」と表現したのは国内株式だけを投資対象とする投信で運用履歴が20年を超えるような超長寿投信が少ないのが現実だからです。投信の運用成績は過去のものであって将来の運用成績を保証するものではなく、また図にある投信の好成績が今後も続くとは限りません。しかしながら、個別株を選ぶのが難しい、あるいは投資（資産形成）に割く時間が余らないという人は国内株式型投資信託を活用して資産倍増の夢をみるのも悪くはないはずです。

過去20年の国内株式型投資信託の上昇率

	ファンド名(一部略称)	運用会社	基準価額 の変化	純資産額
1位	DIAM新興市場日本株ファンド	アセマネOne	21.4倍	142億円
2位	JPMザ・ジャパン	JPモルガン	11.4倍	727億円
3位	日本新興株オープン	日興	9.0倍	136億円
4位	JPM-E-フロンティア・オープン	JPモルガン	8.2倍	58億円
5位	スパークス・ジャパン・スモール・キャップ・ファンド	スパークス	7.7倍	45億円
6位	マネックス・日本成長株ファンド	アセマネOne	7.4倍	45億円
7位	Jオープン(小型株)	三菱UFJ国際	6.6倍	54億円
8位	MHAM新興成長株オープン	アセマネOne	5.3倍	432億円
9位	次世代ファンド	三井住友TAM	5.0倍	114億円
10位	インベスコ 店頭・成長株オープン	インベスコ	4.7倍	45億円

参考：日経平均株価＝3.4倍、TOPIX(東証株価指数)＝2.4倍

※データは2023年7月末日現在、ファンド名、運用会社は一部略称となっています。

- ・1位のDIAM新興市場日本株ファンドは2007年11月29日から2023年7月末までの変化
純資産総額30億円以上、通貨選択型、高(好)配当型、ラップ、SMA専用、SMA専用、ETFは除く、
出所：ウェルズアドバイザーHPより